

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

# 平成 29 年度年次レポート

[第 10 期年次総会]

## 議事

議案 1. 平成 29 年度事業報告

議案 2. 平成 29 年度活動計算書報告

議案 3. 平成 30 年度事業計画

議案 4. 平成 30 年度活動予算

議案 5. NPO 法改正にともなう定款変更の件

会場 TKP 新橋汐留ビジネスセンター

住所 東京都港区新橋 4-24-8 2 東洋海事ビル ミーティングルーム 103

電話 03-5425-4626

日時 平成 30 年 4 月 15 日 (日曜日) 午前 10 時 15 分~午前 11 時 15 分

## 平成 29 年度事業報告総括

2001年に初めてモンゴルへ渡航して先天性心疾患児の診断と治療を行ってから、2018年で17年を経ました。これまでに治療カテーテル件数582例、診断カテーテル702例を数えます。2014年以降はモンゴルの医療関係者への教育に重点をおいて活動し、その成果として一昨年、昨年と年を追うごとに現地医療関係者が急激に成長していることを実感しております。

平成29年度は3か所のモンゴル地方検診と5回の首都ウランバートルでの小児の先天性心疾患患者の検診・治療活動に加え、初めてウズベキスタン国を訪れての治療活動を実施いたしました。モンゴル地方検診は4月末～5月1日に10年ぶりのオルホン県エルデネットとブルガン県ブルガン、8月には9年ぶりとなるフブスグル県ムルンで実施しました。検診の様子につきましては、後ほどの各事業の内容と成果をご覧ください。地方検診は2015年をもってモンゴル全県訪問を達成し2016年から二巡目に入っております。

ウズベキスタン国は、モンゴルでのハートセービングプロジェクトの活動を聞き及んだ国立外科病院の医師からの呼びかけに応じて5月に視察と治療活動を兼ねて訪問、9月に再訪いたしました。ウズベキスタン国のインフラはモンゴルの10年前のような状況で、消耗品は不足しており、ハートセービングプロジェクトの支援を大変心頼みにしているようです。

教育事業としては、6月に実施されたアジア国際小児医療学会（香川 四国こどもとおとなの医療センター）へのワンチンドルジ医師（モンゴル国立母子保健センター）の参加をサポートしました。

救急車事業につきましては、昨年は2台をモンゴル国の各病院へ寄贈いたしました。

本年度もハートセービングプロジェクトへのみなさまのご支援とご協力を是非とも賜りますようお願い申し上げます。みなさまの気持ちを大切に現地へ届けてまいります所存です。

理事長  
羽根田 紀幸

## 議案 1 平成 29 年度事業報告資料

### 平成 29 年度実施の各事業の内容と成果

#### 1. モンゴル渡航治療支援活動

##### ○ 5 月モンゴル渡航治療支援事業（オルホン県・ブルガン県地方検診、カテーテル治療活動）

日程＝4 月 28 日～5 月 6 日

渡航人員＝小児循環器医師 7 人、麻酔科医師 1 人、看護師 1 人、事務局 1 人 合計 10 名

うち医師 2 人、看護師 1 人、事務局 1 人は到着翌日に国立母子保健センターのエネレル医師、現地協力 NPO である Zurkh Khamagaalakh Tusul(以下 HSP モンゴル)のボランティア 3 人、青年会議所モンゴル中央支部スタッフと共に 2 泊 3 日でオルホン県エルデネットとブルガン県ブルガンにて地方検診を実施。その後ウランバートルに戻り、そのままカテ班と合流して 5 月 4 日まで活動しました。

医師 5 人は 5 月 1 日と 3 日に現地入りし、2 日、3 日、4 日、5 日、6 日の 5 日間国立母子保健センターにて治療活動を実施しました。

内容と成果＝

##### (1) 地方検診 オルホン県エルデネット・ブルガン県ブルガン

検診班は到着翌日の 4 月 29 日、朝 6 時にホテルを出発し、車 2 台に分乗して一路エルデネットを目指しました。ウランバートルからおおよそ 450km の距離にあるオルホン県エルデネットはモンゴル北部で、ロシアと国境を接しています。エルデネット・ブルガンへの前回の訪問は 2006 年と 10 年ぶりです。朝 6 時に出発し、約 7 時間あまりの移動ののち、現地の病院に午後 2 時に到着。2 時半から診察を開始しました。この日は午後 8 時に診察が終了。84 人のエコー検診を実施し、うち 47 人の心疾患が確定しました。オルホン県立中央病院は小児科医が 6 人もいる大きな地方病院ですが、小児循環器科はなく、成人を診る循環器医師はいるものの、子どもは診ないため、先天性心疾患を疑われる子供たちは小児科の医師が聴診器で診ているという状況でした。重症のお子さん 2 人はそのまま母子センターへ引き継ぎました。現地活動中、オルホン県の地元テレビ局からニュース取材の訪問があり、山本英一医師が対応しました。また、途中、オルホン県副知事が病院に訪れてわれわれの活動の視察を行いました。



エルデネットのオルホン県立中央病院前にて 検診をする山本英一医師

ブルガンの村の保健所前にて

翌朝 8 時にエルデネットを発ち、59km 離れたブルガンには 10 時に到着。この日は日曜でブルガン県立中央病院が休みのため、村の保健所を借りて検診しました。県立病院の医師は本来、村の保健所には立ち入ること

ができないことになっていますが、日ごろ診ている患者さんを連れて HSP の様子を見学に来ていました。この日は夜 7 時まで、翌日はブルガン県立中央病院にて朝 8 時半から午後 1 時まで検診しました。



ブルガン県立中央病院

ブルガン県立病院でも心エコー機はなく、小児科医が先天性心疾患が疑われる子どもたちを聴診器で診ています。医師らは心エコーの検診方法を勉強したいと言っていました。ブルガンでは全部で 126 人のエコー検診を実施し、32 人の心疾患が確定。うち重症のお子さんが 4 人いました。肺動脈弁狭窄が確定したお子さんは 8 月の HSP の治療予定としました。また、こちらの病院には JICA で看護師の方が 1 人いらっしゃるようでしたが今回は会えませんでした。検診の後、昼食をはさんで病院見学と現地病院の医師とのカンファレンスを行い、夕方 5 時半に出発。途中ダルハンで下車して夕

食を取ってからさらに車で移動し、ウランバートルに到着したのは夜中 1 時過ぎでした。

HSP では地方検診で発見された心疾患のお子さんのカルテを同行の母子センター医師にカルテを引き継ぎ、今後のフォローアップを依頼します。さらに HSP が次回モンゴルを訪問する際には母子センターを通じて親御さんへ連絡を取り、ウランバートルへ出て来ていただけるようお願いしています。外科手術が必要なお子さんについては母子センターおよび国立第三病院へ引き継ぎますが、今のところ第三病院で手術できるのは体重が 20kg 以上に限られています。第三病院では国外から韓国チーム（年 2 回、1 回 6 人を治療）とアメリカチーム（年 2 人を米国にて治療）が活動しています。

この 5 月の地方検診は、現地 NPO 法人 ZuruKh Khamagaalakh Tusul とともに国際青年会議所（Junior Chamber International）モンゴル中央支部が活動をサポートしてくださいました。

また、GE ヘルスケア・ジャパン様から VIVID iq の無償貸与をしていただきました。これは地方検診にとって大変大きな助けとなりました。改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

## （2）カテーテル治療活動

母子センターでは 131 件の心エコー診断を実施。治療カテーテルは 22 例、うち動脈管開存（PDA）が 14 例、肺動脈弁狭窄（PS）が 1 例、心房中隔欠損（ASD）が 7 例。診断カテーテル 2 例という結果でした。

今回、渡航直前に、母子センター側から、今回治療対象となっている患者さんに用いるデバイスの用意が足りていないという連絡が入り、急きょ日本から用意するというハプニングがありました。この裏には、昨年からはまった自費治療を負担できない患者さんと病院との間の調整不足が影響しているように思えます。このため、治療予定を一部、夏に積み残すこととなりました。ただ、母子センターの医師は大変治療に積極的になって来ており、この度も 10 人の患者さんについて今後の治療方針の相談をしたいというリクエストがありました。今回、デバイスの到着待ちもあり、結果 1 日に 8 例、9 例とあわただしい状況となりました。母子センターの麻酔科の医師らは積極的に協力してくれましたが、それでも片岡先生、片山先生は帰国当日、朝 8 時から病院で治療カテをしてからそのまま空港へ向かうことになってしまいました。ウランバートルでは UBS テレビは 5 月 4 日のニュースでこの活動を伝えたとのことでした。



2017年5月モンゴルカテーテル治療活動参加の  
スタッフ集合

### ○ 5月ウズベキスタン治療およびリサーチ渡航事業

渡航人員＝小児循環器医師 2名

日程＝5月3日～7日（3泊5日）

内容と成果＝



タシケントの街並み



ヴァヒドフ記念病院

5月3日夜8時半、富田英副理事長と藤井隆成医師がウズベキスタン国タシケントに到着。ヴァヒドフ記念病院の副院長とナジミディーン医師が空港まで出迎えていただきました。翌日「ヴァヒドフ記念病院」を訪問。午前中は2例+αの心エコー検診ののち、大動脈縮窄症（CoA）1例と心房中隔欠損（ASD）症1例の治療カテーテルを実施。午後数例の心エコー検診。二日目は前日治療した患者さんの術後検診と、動脈管開存症(PDA)の治療カテーテルを実施。そののち数例の心エコー検査をして今回の検診は終了しました。

ウズベキスタン国は野菜や果物が大変豊富で、町中の建築物は大変美しいところだということです。治療のシステムはかつてのモンゴル国と同様で、小児循環器の医師は心カテーテル治療をせず、小児の心カテーテル治

療を行うのは外科医という仕組みになっています。この病院では年間 100 例ほどの先天性心疾患の治療を行っているようですが、一番の問題は国民保険の仕組みはなく、デバイスの費用負担は患者さん自身、患者さんのうちそれを負担できる経済力のある人は大変少ないということです。また、こうした背景のもとデバイスの消費が少ないため販売代理店が寡占状態で、そのため余計に単価が高くなっているようです。国内では消耗品をリユースしていることがもっぱらですが、国外からの輸入の際には期限切れの製品を持ち込むことができません。今後どのようなかたちでハートセービングプロジェクトが支援するのが良いか検討をしてみたいです。

## ○ 8月モンゴル渡航治療支援事業（フブスグル県地方検診+カテ治療班）

渡航人員＝小児循環器医師 6 人、事務局 1 人 合計 7 人

日程＝8月9日～8月15日

比較的雨が多く、日中の気温は 20 度前後、夜は 12 度ほどと涼しかったです。全員おなかをこわすことなく活動できましたが、現地では流感が流行っていたらしく、母子センターの医師が風邪をひいていました。

内容と成果＝

### （1）地方検診 フブスグル県ムルン

ウランバートルから 700 キロメートルあまりの距離にあるフブスグル県ムルンですが、前回訪問したのは 2007 年 8 月でしたので、今回の訪問は 10 年ぶりでした。ウランバートルの国立母子保健センターからはエネレル先生が同行しました。また今回は、駐日モンゴル国大使館から夏休みを利用して大束さんとその奥様が通訳として参加してくださいました。お二人はウランバートルから 9 時間ほどを車で向かい、現地で合流しました。

HSP メンバーはウランバートル到着翌日の 8 月 10 日朝 8 時に国内線飛行機に乗り、1 時間半のフライトののち、フブスグル県の県庁所在地ムルンに到着。早めの昼食をとったあと、県立中央病院にて午後 1 時から診察を開始しました。この病院にはエコー診断装置がありましたが、故障しており、修理の見通しも立っていません。今回も日本からポータブルエコー機を借り受けて持参することができましたので、定期的に検診を受けることができずにいた多くの患者さんを診察することができました。1 日目は 63 人を検診し、病院から 5 分のホテルにて宿泊しました。翌 11 日は 9 時から検診開始しました。羽根田先生、田村先生はこの日、フブスグル県の保健課からご挨拶があり、その対応をしました。遠路フブスフルまで来ていただいて感謝しますとお言葉をいただきました。活動 2 日目は県内でも比較的遠いところからの患者さんが集まり、68 人の患者さんを検診しました。午後 3 時に検診を終了し、1 時間半ほどをかけて小児科長、副院長を含めて小児科、循環器科全体でのカンファレンスを行いました。活動終了後、フブスグル湖畔に向かい、ツーリストキャンプで一泊しました。その日の夜、昼に間に合わなかった遠方からの家族がお子さんを連れて到着したため、急きょ心エコー診断をすることになりました。この患者さんは 2 年以上前にウランバートルの母子センターで診察を受け、心房中隔欠損（AS）D の診断を受け、定期的に検診するようにとのことだったが遠いために病院に行けないうえにいたことでした。ちなみにツーリストキャンプは wifi が使えました。翌 12 日、11 時半発の国内線でウランバートルに戻りました。

検診結果は 132 人検診、うち健康な方は 76 人、心臓疾患患者さんは 56 人。うち 3 人を県立中央病院と母子センターに引き継ぎ、3 人の治療に手術が必要な患者さんは第三病院に引き継ぎ。重症患者さん 15 人という内容でした。



ムルンのフズグル県立中央病院

検診の様子

フズグル湖畔にて

## (2) カテーテル治療活動

治療カテーテル 19 例で、内訳は動脈管開存 (PDA) 13 例、心房中隔欠損 (ASD) 3 例、肺動脈弁狭窄 (PS) 3 例 (うち 1 例は効果を得られず)、診断カテーテル 2 例、心エコー検診 101 人という結果でした。

到着翌日の 8 月 10 日に治療カテーテル 3 例 (動脈管開存 (PDA) 2 例、心房中隔欠損 (ASD) 1 例) を実施。

12 日～14 日には心房中隔欠損 (ASD) 2 例、動脈管開存 (PDA) 11 例、肺動脈弁狭窄 (PS) 3 例 (うち 1 例は効果得られず)、診断カテ 2 例を行いました。また ICU に入院中のお子さんを検診し、現地医師らにアドバイスを行いました。5 月に母子センターで用意されているはずのデバイスがなく治療予定が繰り延べになったため、8 月は重症の地方患者さんが中心でした。今回の問題として、病院の感染症対策が挙げられます。カテーテル治療が終わった患者さんのうち感染症の疑いが生じ、合併症を併発したことで初めて ICU 内に感染症が流行していることが発覚。羽根田理事長は母子センターの院長にこの件につき今後このようなことがないよう強く申し入れをしました。



2017 年 8 月のカテーテル治療

## ○ 9 月ウズベキスタン渡航治療支援活動

渡航人員＝医師 2 名 日程＝9 月 22 日～24 日 (2 泊 3 日)

内容と成果＝23 日は肺動脈弁狭窄 (PS) が 3 例、大動脈縮窄症 (CoA) が 3 例、心房中隔欠損 (ASD) が 1 例の合計 7 例の治療カテーテル、24 日は 2 例の診断カテーテルを行いました。短時間でしたが大変内容の濃い治療活動でした。この度の渡航治療活動では駐日ウズベキスタン大使館様、東海メディカル様の多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

## ○ 11月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

渡航人員＝小児循環器医師 5 人、事務局 2 人 合計 7 人

日程＝11月6日～11月15日（医療チーム活動は9～13日）

内容と成果＝飛行機が大寒波のため2時間遅れての到着となりました。当初、夕方5時から治療対象患者さんを中心に91人の心エコー検診しましたが、夜8時から開始となり終了は午前0時半を過ぎてしまいました。期間中、動脈管開存（PDA）4例、肺動脈弁狭窄（PS）1例、心房中隔欠損（ASD）6例の合計11例の治療カテーテルと、10例の診断カテーテル（うち5例の経食道心カテーテル）を行いました。母子センターでは必要なデバイスが十分確保されていなかったため、予定されていた患者さんのうち一部を12月の治療に変更し、また母子センターの医師からの要望を入れて経食道心エコーの勉強会を実施することにいたしました。10日にはバートルガ大統領を宇佐美博幸事務局長、事務局アルタントーヤ、HSP モンゴリアのオユニナー事務局長、事務局バドラルが表敬訪問しました。バートルガ大統領は当選前からハートセービングプロジェクトの活動を応援してくださっていました。

今回大きく感銘を受けたできごとがありました。それは今回の治療を受けたG.エムージンちゃん（女児12才）の親御さんの呼びかけで、治療を受けたお子さんたちからたくさんの絵手紙をいただいたことです。エムージンちゃんは2015年（当時10才）に動脈管開存の治療を受け、今回はさらに心房中隔欠損の治療を受け、これですべての治療が終了し、健康を取り戻したお子さんです。「わたしに未来をプレゼントしてくださった日本とモンゴルのお医者様方、ありがとう。この恩は一生忘れずに心優しい大人になります」とのメッセージをいただきました。



11月に治療を受けたお子様と保護者の方々と



G.エムージンちゃんからの絵手紙

## ○ 12月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

渡航人員＝小児循環器医師 6 人、事務局 1 人 合計 7 人

日程＝12月20日～12月27日（医療チーム活動は22～25日）

内容と成果＝22日、12月も飛行機が1時間半到着遅れとなり、初日の治療対象者の心エコー検査は開始19時半から終了23時となりました。また23日、24日の両日とも活動終了時刻が午後9時を回り、この度も大変厳しいスケジュールでした。

内容は肺動脈弁狭窄（PS）が1例、動脈管開存（PDA）8例、心房中隔欠損（ASD）5例、動脈管開存と心房中隔欠損の合併1例、大動脈縮窄症（CoA）1例、の合計16例の治療カテーテルと診断カテーテル4例（う

ち1例は経食道心カテーテル)、心エコー検診57人となりました。今回は重症患者が多いようでした。中でもバヤンウルギー出身の生後21日の男児は、病院内に適したサイズのス TENTもバルーンもなく、応急処置をし、2月に適したサイズのス TENTを持参して治療の足掛かりをつけることとしました。

また在モンゴル日本大使館医務官の山田様と2018年度中にウランバートル在住の邦人の子どもたちを対象とした心エコー検診を実施する計画について詳細の打ち合わせを行いました。

23日、バトトルガ大統領が業務の合間を縫って母子センターで活動中のハートセービングプロジェクトの様子を見学しにいらっ しゃいました。大統領はハートセービングプロジェクトの活動についての写真展を実施したいとのことです。



バトトルガ大統領（前列中央）と



治療対象の患者さん親子と

## ○ 2月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

渡航人員＝小児循環器医師2人、事務局1人 合計3人

日程＝2月23日～28日（医療活動 2月24～26日）

内容と成果＝患者さんの容態に応じて臨時の渡航を実施しました。内容は3か月の男児2人の大動脈縮窄症（CoA）2例の治療カテーテルと、心エコー検診3人でした。富田英先生、片岡功一先生の到着が午後4時、そのまま国立母子保健センターへ直行して夜6時半からさっそく治療にとりかかり、終了はその日の午後11時半という大変な強行スケジュールで、翌日は術後チェック、その翌日に帰国でした。

## 2. 教育事業

2017年6月5日から6月12日までの8日間の日程で、モンゴル国立母子保健センターの循環器科からS.ワンチンドルジ医師を招聘しました。同医師は、四国子どもと大人の医療センター（香川県）にて6月8日～10日に行われた第3回アジア国際小児医療学会（Asia Medical Conference on Child Health in Kagawa 2017）に出席、発表を行いました。この学会には、モンゴルをはじめタイ、ミャンマーなど11か国からの出席があり、46の演題が発表されました。檜垣理事がワンチンドルジ医師の発表の指導をし、事務局で来日から帰国までのアテンドを行いました。

学会参加のほか、愛媛大学病院で檜垣理事のもとで心カテーテルの見学、四国子どもとおとなの医療センターの院内での見学をし、東京観光を楽しんだのち約1週間あまりの研修が終了しました。

貴重な経験をすることができ、ワンチンドルジ医師は大変勉強になりました、ご協力いただいた皆様に感謝しますとのことでした。



学会で発表する S. ツツドール 医師



檜垣先生、寺田先生ありがとうございました

### 3. 広報活動

本年度も、公式 HP、フェイスブック、ツイッターでの広報活動を継続して実施いたしました。公式 HP では、片岡功一理事にはお忙しい中寄稿いただきました。また、元読売新聞社の西嶋大美氏には「応援団」シリーズで取材と記事作成をしていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 4. 救急車・消防車事業



平成 29 年 3 月 28 日広島市にての救急車贈呈式



平成 28 年に救急車を贈呈された 2 病院からの記念の盾を届けました

2017 年 3 月 28 日に広島県広島市において贈呈式が行われました救急車 2 台ですが、うち 1 台はセレンゲ県立中央病院、1 台はトゥブ県バットスムベル村に無償譲与されました。

この事業については、皆さまのご存知のとおり、日馬富士関がハートセービングプロジェクトとタイアップして実施してまいりました。2018 年度もすでに広島市から 2 台の救急車をモンゴル国へ寄贈することが決定し、福井県鯖江市も 2018 年も継続してこの事業を行うとのことです。

## 5. ニュース

(1) 2017年6月23日付けのモンゴル国大統領令第143号によりハートセービングプロジェクトの長年にわたる交流促進に貢献したとして片岡功一理事、藤井隆成医師、西川望氏がモンゴル国北極星勲章を受章しました。

授与式が2017年7月26日に駐日モンゴル国大使館で行われ、駐日モンゴル国特命全権大使 S. フレルバートル閣下から拝受しました。「北極星勲章」は、モンゴルにおける最高の国家勲章であり、外国人に授与される勲章の中では最高位のものであります。

(2) 檜垣高史理事が2018年1月29日にモンゴル国立医学大学の名誉教授称号を授与されました。これは2001年以降、モンゴルの先天性心疾患病のカテーテル診療、並びにモンゴル人医師たちのカテーテル治療教育に多大なる貢献されてきたことによるものです。

## 6. 本年度も多くのおみなさまからご寄附をいただきました。ありがとうございました

- 本年度ご寄附をいただきました団体は以下の通りです（アイウエオ順、敬称略）
  - 愛信会かなぐすくクリニック（沖縄県那覇市）／出雲小児科医会（島根県出雲市）
  - ／いちご調剤薬局（島根県出雲市）／いわたにこどもクリニック（山口県萩市）
  - ／打田耳鼻咽喉科医院（島根県出雲市）／江口内科医院（島根県出雲市）
  - ／エドワーズライフサイエンス基金（米国）／愛媛大学大学院医学系研究科地域小児・周産期学講座
  - ／大分こども病院（大分県大分市）／大田シルバークリニック（島根県大田市）
  - ／おかはた小児クリニック（広島県広島市）／有限会社 小川商事（神奈川県平塚市）
  - ／岡村一心堂病院（岡山県岡山市）／沖田内科医院介護老人保健施設さざんか（島根県浜田市）
  - ／北村内科クリニック（島根県浜田市）／国際ソロプチミスト出雲（島根県出雲市）
  - ／後藤内科医院（島根県出雲市）／こどもの城 おぐち・こどもクリニック（神奈川県相模原市）
  - ／小林クリニック（島根県松江市）／佐田診療所（島根県出雲市）／サノフィ株式会社
  - ／四国こどもとおとなの医療センター／すぎうら医院（島根県出雲市）
  - ／全国心臓病の子どもを守る会島根県支部（島根県出雲市）／高梨医院（島根県隠岐郡）
  - ／玉名泌尿器科クリニック（熊本県玉名市）／ツチャ養鶏（島根県雲南市）
  - ／つむらファミリークリニック（島根県出雲市）／とうぎ皮膚科クリニック（島根県出雲市）
  - ／日本医師会／日本小児科医会／花畑診療所（福岡県久留米市）／浜中皮ふ科クリニック（広島県尾道市）
  - ／はまなか皮膚科クリニック（埼玉県朝霞市）／ファイザー株式会社
  - ／ファミリークリニックせぐち小児科（鳥取県米子市）／北陽クリニック（島根県出雲市）
  - ／ますたに小児科医院（島根県益田市）／外科内科山尾医院（島根県出雲市）
  - ／山田皮膚科医院（島根県出雲市）／嘉村医院（島根県出雲市）
  - ／りゅうじん医院（静岡県駿東郡）／若園医院（岐阜県瑞穂市）
- このほかにも大勢の方々からご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。

## 平成 29 年度モンゴル渡航治療活動に参加された方々からの声

### 島根大学医学部麻酔科 片山望

この度、カテーテル治療に麻酔科医として参加させていただきました。私にとって 2 度目の参加である今回はモンゴルの母子センターの麻酔科医とともに全身麻酔管理に当たらせていただきました。母子センターの先生方は小児麻酔に長けた先生ばかりでしたので、主に高肺血流患者の管理について不慣れな英語ですが説明を行いながらの活動でした。日本で使用している麻酔薬がなかったり麻酔器が動かなかったりなど戸惑うこともありましたが、お互いの麻酔方法や薬剤使用法などについて意見交換を行うなど交流しながら診療することができ、大変貴重な経験となりました。モンゴルの子供たちの健康を守る活動を、麻酔科医の立場からお手伝いすることができとてもよかったですと思っています。

### 愛媛大学大学院医学系研究科分子・機能領域 小児科学講座 山本英一

私は、今回で 8 回めのモンゴル渡航である。この日を迎えるたびに、わくわくしている。いったいなにがそうさせるのだろうか。

モンゴルの景色がすてきだから、おいしいモンゴル料理が食べられるから？(確かに、それも理由の一つかも) いやいやそうではない。モンゴルの HSP がいて、日本の HSP がいて、しっかりタッグを組んで、年に 1 回の渡航である僕にとっては、成果を発揮することのできる大きな大会のようなものと感じている。いつもの日常とは異なり、日本での自身の日常診療の経験をここで発揮するために、失敗のないようにと、緊張感がみなぎる。これがわくわくの原因だと思う。

今回も事故やトラブルなく、それなりの成果をえて、終わった。毎回、モンゴルの医師たちの、基本や技術がかなり向上してきていることを感じる。それゆえ、これからの自分自身の、この活動の役割は何か。しっかり、考えていながら、その目標を見つけて、来年もぜひこの土地で、わくわくできたらいいと思う。

### 愛媛大学医学部附属病院 PHCU 看護師 小出沙由紀

今年も昨年に引き続き HSP の活動に看護師として参加させていただきました。

昨年、初めてモンゴルに行き、HSP のスタッフの温かさや現地スタッフの愛国心や向上心、モンゴルの国の雄大さに心を引かれ、次もぜひ参加したいと思っていました。この活動に参加しているスタッフは本当にモンゴルの事が好きで、プライドを持って仕事をしています。日本では一緒に仕事をする事のない医師やスタッフと関わることで様々な経験談や価値観を聞くことができ、自分の世界を広げることができています。今後も、看護師である自分だからできることを見つけ、モンゴルの子どもやその家族が幸せになるためのお手伝いができたらと思います。ありがとうございました。

### 昭和大学病院 小児循環器・成人先天性心疾患センター 助教 佐々木尅

2017 年 12 月にカテーテル班としての参加させていただきました。モンゴルに到着した夜に空港から病院へ直接伺ったのですが、夜遅くにもかかわらずたくさんの子供たちが待っている状態で、とてもやりがいを感じました。現地では限られた時間と医療資源の中治療を決断していかなければいけなく、大変勉強になるとともに、日本は恵まれた環境だということを再認識させられました。今後も HSP の活動に関わっていきたいと思います。

議案 2 活動計算書報告資料

平成 28 年度の会計財産目録と平成 29 年度の会計財産目録

科目	平成 28 年度	平成 29 年度
現金	11,810 円	105,445 円
貯蔵品(切手)	11,204 円	8,734 円
普通預金三菱東京 UFJ 銀行	4,554,124 円	10,054,452 円
普通預金 ゆうちょ銀行	3,306,489 円	1,820,795 円
普通預金 三井住友銀行	3,500,009 円	777,089 円
郵便振替口座	10,000 円	10,000 円
	11,393,636 円	12,776,515 円

正味財産の増減および当期経常増減額はプラス 1,382,879 円でした。

平成 29 年度末の財産のうち指定正味財産(使用目的が限定された寄付金額)は 777,087 円です。

科目		平成 29 年度事業計画金額	平成 29 年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	500,000 円	563,000 円	
	寄付金収入	9,500,000 円	7,872,341 円	
	助成金等	0 円	1,512,296 円	
	受取利息	0 円	92 円	
	その他収入	0 円	0 円	
	小計	10,000,000 円	9,937,729 円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	1,200,000 円	946,052 円	
	日本での物的サービスの受入	800,000 円	3,843,500 円	
	物的サービスの受入合計	2,000,000 円	4,789,552 円	
収入合計		12,000,000 円	14,737,281 円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	3,780,000 円	4,458,632 円
		日本で支援する活動	5,760,000 円	6,882,257 円
		教育事業	50,000 円	40,181 円
		救急車輸送事業	1,300,000 円	693,890 円
		日本で広報する活動	240,000 円	338,483 円
		事業費合計	11,130,000 円	12,413,443 円
	管理費合計	1,100,000 円	940,959 円	
支出合計		12,230,000 円	13,354,402 円	

## 平成 29 年度 事業別経費

平成 29 年 3 月 1 日から平成 30 年 2 月 28 日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	支出額
国外 支援 事業	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 1 班	2017.4.28～5.6	ウランバートル 国立母子保健センター	40 人	1,304,048円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～オルホン県・ブルガン県	2017.4.28～5.3	オルホン県立病院、 ブルガン県立病院	30 人	53,554円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～フブスグル県	2017.8.9～8.12	ムルン県立病院	30 人	551,084円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 2 班	2017.8.12～8.15	ウランバートル 国立母子保健センター	40 人	736,151円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 3 班	2017.11.6～11.15	ウランバートル 国立母子保健センター	40 人	731,446円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 4 班	2017.12.20～12.27	ウランバートル 国立母子保健センター	40 人	902,798円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 5 班	2018.2.25～2.27	ウランバートル 国立母子保健センター	20 人	179,551円
	救急車寄贈事業 8 月輸送	2017.8.16	ウランバートル	10 人	173,509円
	ウズベキスタン治療渡航活動 第 1 回	2017.5.3～5.7	タシケント ヴァヒドフ記念病院	20 人	0円 (現地病院の負担)
	ウズベキスタン治療渡航活動 第 2 回	2017.9.22～9.24	タシケント ヴァヒドフ記念病院	20 人	0円 (東海メディカルプロ ダクツ様の負担)
国内 支援 事業	平成 28 年度使用 医療関係消耗品手配・購入	2017.11～2017.12	東京	16 人	538,937円
	医療関係消耗品寄付	2017.3～2017.11	東京	16 人	2,940,000円
	交通費(エアチケット含む)	2017.3～2017.12	東京	10 人	2,128,767円
	上記を除く渡航事業支援活動	通年	東京	30 人	316,281円
	教育事業	2017.3～2017.9	東京・愛媛県	60 人	40,181円
	救急車輸送事業	2017.3～2018.1	東京・名古屋	30 人	520,381円
国内 広報	(1) 年間広報ツールの発送	通年	東京	50 人	312,483円
	(2) ホームページドメイン費	年1回(寄付)	ウランバートル	30 人	26,000円

現地 事業費総額	4,632,141円
国内 事業費総額	7,442,819円
国内 広報事業 事業費総額	338,483円
管理費経費	940,959円
合計	13,354,402円

### 平成 29 年度収入の内訳

会費	563,000円
寄付金	7,872,341円
受取助成金	1,512,296円
施設等評価益	4,789,552円
受取利息	92円
	14,737,281円

### 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありますら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	金額	内容
Bayangol Hotel様	431,429円	5月38泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
Bayangol Hotel様	339,623円	11月30泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
Bayangol Hotel様	175,000円	11月18泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
モンゴル国内 物的サービスの受入合計	946,052円	
株式会社東海メディカルプロダクツ様	2,940,000円	小児用バルーンカテーテル 標準小売価格による
日馬富士関	105,000円	相撲番付1200枚、相撲カレンダー60部 大相撲協会の規定料金による
錦島太郎親方	52,500円	相撲番付300枚、相撲カレンダー50部
エンフグジル バヤサル様	26,000円	公式HPの年間ドメイン料金
宇佐美写真事務所 事務所家賃	720,000円	契約書による
日本国内物的サービスの受入合計	3,843,500円	
国内外合計	4,789,552円	

※Bayangol Hotel (バヤンゴルホテル) 様とは2015年に契約を締結し、年上限2,000万トゥグルグまで無料宿泊、それを超えた額については両者間で取り決めた金額(割引価格)を支払うことになりました。

以下のみなさまは金額の提示がなく物的サービスを提供された方々です

以下の方々には「内容」の無償提供をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

日付	提供者名	内容
2017.4.28	オユンナさんご家族	4月28日のスタッフ夕食
2017.5.4	バヤルサイハン君のご家族	5月4日のスタッフ夕食
2017.8.3	日馬富士関の叔父のニヤム氏	8月13日のスタッフ夕食

### 議案3 平成30年度事業計画資料

#### <海外渡航治療支援事情>

##### (1) 5月モンゴル地方検診班

行先はバヤンウルギー県です。モンゴル国の西部に位置し、中国と山間部で国境を接しています。ここへの前回の訪問は2013年8月、来院者数は100人でした。4月30日にモンゴル入り、翌日国内線の飛行機にて現地入りし、到着当日とその翌日を検診活動、5月2日にウランバートルに戻る予定です。

##### (2) 5月モンゴルカテ班

5月2日にウランバートル入りし、5月5日までモンゴル国立母子保健センターにて無償治療活動を行います。このチーム編成は人数を多めにし、治療を待つ患者さん対応をする目的とします。

##### (3) ウズベキスタン カテ班

4月27日から5月1日の日程でウズベキスタン共和国ヴァヒドフ記念病院においてカテーテル治療活動を行います。同病院からはすでに治療候補の患者さんのデータが届いています。

##### (4) 8月モンゴル地方検診班

8月9日に日本を出発し、15日に帰国、検診地はゴビアルタイ県で地方検診活動を行う予定です。患者さんの状況により検診活動と合わせてカテーテル治療活動も同時に行う可能性もあります。

##### (5) 後期モンゴルカテ班

11月、12月の2回のカテ班を実施します。人員構成は少人数制で実施の予定です。こちらの2班の目的は、現地医師たちの教育とし、術前術後のカンファレンス、エコーのカンファレンスに重点を置くこととします。日程としては11月23日～26日、12月21日～24日とします。

#### <教育事業>

四国こどもと大人の医療センター（香川県）にて行われる第4回アジア国際小児医療学会（Asia Medical Conference on Child Health in Kagawa 2018）への参加を目的に、モンゴル国立母子保健センターからE.Enerel医師を招聘いたします。

#### <救急車輸送事業>

○ 広島市から救急車2台の寄贈のご連絡をいただいております。2018年中にこれをモンゴルの地方病院へ送る事業を進めてまいります。

○ 福井県鯖江市からも継続でこの事業を行うご連絡をいただいております。

議案 4 平成 30 年度活動予算資料

平成 28 年度 繰越額		円
	会費収入見込額	55万円
	寄付金見込額 (国内)	1100万円
	物的サービス等受入見込額(国内)	80万円
	物的サービス等受入見込額 (現地)	120万円
<b>収入見込合計</b>		<b>1355万円</b>
<b>国内支援事業 562万円</b>	(1)モンゴル地方検診・カテーテル班 5 月、8 月、冬班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ 30 人	210万円
	(2)医療品 日本での調達分	40万円
	(3)ウズベキスタン治療活動 デバイス費用	165万円
	(4)ウズベキスタン治療活動 エアチケットおよび宿泊旅費一式(2 回×2 人実施として)	110万円
	(5)国際通話料金	17万円
	(6)事務用品、消耗品、保険料ほか	20万円
<b>現地支援事業 (モンゴル) 572万円</b>	(1)現地での物的サービス(バヤンゴルホテル宿泊)	120万円
	(2)現地宿泊費(上限を超えての支払分)	60万円
	(3)現地宿泊費(地方検診)	10万円
	(4)現地治療で使用の医療消耗品費	250万円
	(5)外注費(現地ボランティア日当)	20万円
	(6)医師免許等事務手数料および関税	14万円
	(7)車両関係費(ガソリン代、レンタカー)	20万円
	(8)出張旅費(食費、水等)	53万円
	(9)その他(通信費ほか)	25万円
教育事業	学会参加への招聘	5万円
国内広報事業	印刷物作成・郵送料など(施設等評価益含む)	34万円
救急車輸送事業	救急車輸送費	110万円
管理費	前年度と同様の内容として	100万円
<b>支出見込額合計</b>		<b>1383万円</b>
<b>次期繰越予定額</b>		<b>▲28万円</b>